

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

假博物館第一期縱覽景况報告書

埼玉縣

L 606
サ

L606

明治十一年 埼玉縣下宮設博物館第一期縱覽景況報告書

館名 武藏國足立郡浦和宿

開館 九月十七日 閉館 十一月六日

券 無之

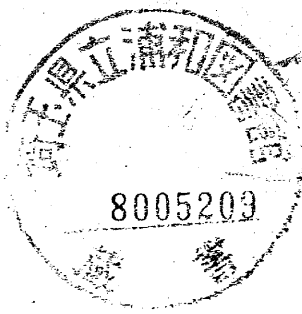
出品主 六百七十三人 觀客 三万四千四百八十七人

出品數 五千七百三十三品 列品總價 四千二百〇六圓六十四錢六厘七毛

天產物 八百十品 內三百六拾五品 館附出品

內製工物 四千九百十品 內九百三拾四品 館附出品

機械 拾三品 內九品 館附出品



列品費數 九百二拾二品 同價格 七百三拾八圓二拾五錢壹厘
 總費 金四千九百二圓二拾五錢壹厘 但縣稅ヨリ支出
 是ハ建築費及運送費物品買上代掌館人門幹
 掃除人臨時雇人給料其他諸雜費

總說

縣下博物館設立ノ事タルヤ農工各其業ヲ校
 ヘント欲スルノ切ナル各種ノ物品ヲ陳列セ
 シトナ請フ者少ナシトセス是固ヨリ民業督
 勵ニ出ルテ以廳亦之ヲ聽ス而シテ開館以來觀
 客ノ氣配ヲ察スルニ品物ノ其心ニ適スルモ

ノアルニ至テハ仔細ニ之ヲ視或ハ物品ノ原
 質其他解シ難キハ之ヲ掌館人等ニ問ヒ質シ
 細ニ掌録シテ歸去スル者凡ソ十ノ二三ニ居
 レリ蓋シ農工各其長ヲ採リ其短ヲ補ヒ以テ
 發悟ヲ要スルノ素意ニ出スルナランカ亦以
 テ博覽會ノ有益タル知ルヘキ也

博物館建築ノ理由及館内概況ノ説明

一館ノ構造大ナラスト雖亦以テ管下凡百ノ物
 産ヲ陳列スルニ足ル也蓋シ管下ノ物産ニ於
 ケル天生人爲ヲ問ハス其種類多カラサルニ

非ズト雖モ沿襲ノ久シキ故轍ヲ脱シテ時好ニ適スヘキモノ幾希ニシテ徒ラニ我ヲ是トシテ彼ヲ非トスルノ弊ナキ能ハス故ニ衆庶ヲ獎勵シ之ヲシテ別ニ一生面ヲ開カシメンコトヲ欲シ其初メ縣内著名ノ産物ヲ蒐集シ其レヲシテ縦覽セシメント欲スルモ陳羅スヘキノ處ナキヲ以テ假ニ先ツ之ヲ廳内ノ一隅ニ陳列ス爾來開知ノ益ヲ得ル者果シテ尠カラスシテ民心自ラ興起シ各多少ノ物品ヲ齎シ來リテ此ニ陳列シ工拙ヲ比較シ精粗ヲ

競角シ孰レカ果シテ時世ニ適シ孰レカ果シテ工巧ヲ盡セルト自ラ其長短ヲ判スルニ至ツテ全ク物産蒐集ノ實益アルコトヲ明知シ有志ノ徒博物館ノ新設ヲ希望スル者陸續トシテ絶ヘス廳議固ヨリ斯ニ意ナキニ非スト雖モ經費ノ支給路ナキヲ以テ徒ニ歲月ヲ經過スルコト久シトス然ルニ出品日ヲ逐テ加ハリ唯ニ陳列ニ困ムノミナラス人民ノ素意ヲ空フスル亦堪ユル能ハサル所ナリ是ニ於テ十一年四月其議ヲ決シ新ニ地ヲ公園

武藏國足立郡浦和宿

ノ東面ニ相シ五月ヨリ土木ヲ興シ七月ニ至
 リテ其功全ク竣レリ但出品未タ甚タ多カ
 サレハ構造モ亦未タ大ナラスト雖人智ヲ開
 發シ物産ヲ生殖スルノ一端ヲ援スクルニ至
 リテハ或ハ己ムニ愈レルモノアラシ
 一館ハ大小二字アリ大ナルモノ之ヲ本館トシ
 小ナルモノ之ヲ副館トス諸製工物及諸機械
 全模型水理槌類ノ模型諸礦物等之ヲ本館ニ
 陳列シ農具及諸農產物ヲ以テ之ヲ副館ニ陳
 列ス

一 列品ノ區畫
 一 明治十年内國勸業博覽會ノ區
 畫分類ニ倣ヒ第一區ヨリ第六區ニ止ム
 一 列品中蕃殖セシメントヲ要スルモノ及ヒ之
 ナ專ラ擴張シ又ハ將來改良セシメント欲ス
 ルモノ或輸入品ニ換用スルモノ其他遺利ヲ
 拾ハントスルモノ等皆其品物ニ就テ得失利
 害ヲ考フルモノ左ノ如シ

第一區

第一類

一 大斑石ノ評

武藏國秩父郡金崎村ノ産ニシテ其質堅ク濃緑淡緑相交リテ雲紋ノ如ク加フルニ光澤ヲ以テス若シ其大ナルモノヲ求ムレハ方六尺内外ノ材ヲモ得易フシテ壯觀ヲ要スル家屋ノ建築等ニ供用セハ尤可ナランカ且荒川接近ノ地ニ産スルヲ以テ運搬モ亦難シトセス

一 黒蠟石ノ評

亦全國郡若田村ノ産ニシテ外面ハ至黒ニシテ中ニ淡緑ノ斑紋ヲ含蓄ス其質理恰モ

甲州ノ黒燭石ニ髣髴トシテ最モ大小ノ材料ヲ切得ヘシ蓋シ製工略ニ供用シテ必ス其可ナルヲ信スル也就也几案會食盤等ノ甲板ニ用ヒハ頗ル其壯麗ヲ示サンカ試ニ印章ヲ刻スルニ運刀自在痕面素レス文字粲然トシテ亦甚々印材ニ適セリ

一 石綿ノ評

亦全國郡皆野村ノ産也其質ノ良否ハ未タ辨セスト雖内地之ヲ産スル甚々稀ニシテ最モ貴奇ノモノトス火完布ヲ製スルハ則

一金鑛ノ評

ナ是ナリ又全郡金崎村ヨリモ産セリト云
 亦同國郡大瀧村字股ノ澤真ノ澤等ノ産ス
 ル所ニシテ該地ハ皆正坑也因ミニ曰股ノ
 澤ハ本村人家ヲ去ル十數里ニシテ西南ノ
 深山ニアリ是昔武田信玄鑿スル所ノ金坑
 ニシテ廢棄既ニ久シト雖モ當時ノ石碑寺
 院ノ舊跡等今尙ホ存セリ莫ノ澤ハ股ノ澤
 ナ距ル南方數里ニアリ是亦武田氏ノ舊坑
 ト口碑ニ之ヲ相傳フ

一銅鑛ノ評

二種アリ一ハ全國比企郡青山村字福壽山
 ノ産ナリ該村ハ小川村ニ接續シテ福壽山
 ハ小川ヲ距ル凡二十町許也該坑ハ十四五年
 前創メテ開鑿セシト云シ一ハ全國秩父郡
 黒谷村字岩井山ノ産也此村ハ荒川ノ支流
 産川沿傍ノ地也該坑ハ和銅年中創テ之ヲ
 開鑿シ以テ銅貨ヲ鑄造スルト云

一鉛鑛ノ評

亦全國秩父郡中津川村ノ産スル所ナリ此

鉛ハ白銀ヲ含畜スルヲ以テ土人之ヲ銀舍
 ミノ鉛ト云フ抑該村ノ西北一里許リヲ距
 リ嵩岳溪瀾或ハ山腹等ニ舊坑數處アリシ
 ニ明治十一年七月靜岡縣下伊豆國賀茂郡
 岡村平民飯田豐吉ナルコノ官許ヲ請ヒ本
 村ノ内字比良平狩掛澤曰ケ岩後口山ノ四
 ヲ所^{共有}地也合四千七百坪ノ地ニ就テ目今試
 ニ舊坑開鑿ニ從事セリ此鉛即ケ其地ヨリ
 得ル所也

一石版石ノ評

亦同國郡黑谷村字大塚山ノ産也今其地ニ
 就テ其石ノ大ナルモノヲ驗スルニ或ハ地
 上ニ秀スルモノアリ或ハ地中ニ埋ムルモ
 ノアリ地中ニ埋ムルモノ肌膚最モ緻密ニ
 シテ其質甚タ堅實ナリ蓋シ此石品位何如
 ハ未タ之ヲ詳カニセスト雖其善キ物ヲ得
 ハ唯ニ海内輸入品ニ依用スルノミナラス
 却テ海外ニ輸出スルニ至ルベシ

ニ砥石ノ評

亦同國入間郡津久根村ノ産ニシテ世上合

セ砥ト稱スルモノ則チ是ナリ巧匠ノ鉋鑿
或ハ剃刀等ノ利器ヲ研クニ至テハ此石ニ
非ラスンバ能ハザル也

一石炭ノ評

秩父郡横瀬村久那村白久村黒谷村等皆之
ヲ産スト雖品位麁薄ニシテ火力モ亦甚弱
シ蓋其坑未タ深カラサルヲ以テノ故歟
右ノ外礦物數種アリト雖一々之ヲ評スルニ暇
アラス故ニ又製造物ヲ評スル左ノ如シ

第一區

第二類

一鐵線ノ評

朱銅黃銅細大方圓ノ各種總テ二十八種ア
リ皆武藏國新座郡膝折村徳生平左衛門奥
住金兵衛高麗總右衛門松下金次郎瀬川庄
兵衛小林徳右衛門等六名ノ製スル所ナリ
該品位ト製造ノ方法等ハ特別アルニアラ
スト雖關左ニ於テハ此ヲ製スル獨リ此膝
折村アルノミニシテ他又類業ナシ其製作
場ハ間口十五六間裏行キ六七間ニ過キサ

ルモノ四棟アリ場ノ中央ニ水道ヲ疏シ圓
徑一丈七尺ノ元車ヲ設ケ水力ヲ假リテ之
ヲ運轉シ以テ絞線ノ轆轤ヲ廻轉ス其水道
ハ玉川ノ支流ニシテ耕養水ノ溝渠也村中
如此モノ四ヶ所ニシテ年間四ヶ所ノ製シ
得ル所五十万斤内外也鹹線ハ金銀銅鉄何
レカ製セサルナシト雖常ニ製スルモノ朱
銅黃銅ノ二種ニ止レリ抑古昔ノ製作處ハ
目黒村ニアリシニ天保ノ初メ之ヲ廢スル
ヲ以テ徳生平左衛門奥住金兵衛等村中水

便アルニ據リ其三年ヲ以テ創テ此業ヲ興
ト云今又各種ノ鹹線製造器械ノ模型ヲ作
リ之ヲ副列シテ其方法ヲ知ラシム亦縣内
著名ノ産物ナレハナリ

第二區

第二類

一 土器ノ評

武藏國高麗郡飯能村及同國比企郡松山町
等ニ於テ製スル所ニシテ民間日用ノ皿小
鉢土瓶摺鉢茶壺油次等ノ各種ニ止レリ若

珪石磁土ノ發見アラシメハ一層ノ物産ヲ
興スヘキナレモ未タ其縣内ニ有ヤ否ヤヲ
詳ニセズ

第四類

一七寶燒器物ノ評

茲ニ列スル花瓶文臺筆筒糕皿等武藏國足
立郡大宮宿鷲田大助ノ製スル所ナリ其摸
樣及形容等ハ果シテ時好ニ適スルヤ否ヤヲ
知ラザレモ製工ノ巧拙何如ニ至テハ浪ニ
評シ難キモノアル也希クハ時好ニ應スル

モノヲ製シ大ニ海外ニ販賣セシメントナ
欲スルナリ曩ニ舊勸商局ノ鑑閱ヲ乞ヒシ
ニ製造未美ナラスト雖其白色ノ精良ナル
ニ至テハ他ノ能ク及フ所ニ非ストノ品評
ヲ得タリ

第五類

一鑄物ノ評

武藏國足立郡川口町鑄工棟梁增田安次郎
ノ製スル所ナリ其館内ニ列スルハ皆民間
必用ノ銅鍍鍋釜及鍍瓶煖爐水盤脚筒其他

ノ各品ニシテ館外ニハ鐵門及欄檻盆栽臺
等是ナリ其鐵門ノ如キハ高八尺ニシテ其
柱ハ細格子透シニシテ扉ハ葡萄唐草等ヲ
以テ模様スモシ西洋ニ擬スルノ家屋ヲ建
築スル如キ此鐵門ヲ用フルモハ唯ニ其壯
麗ヲ添ユルノミナラス實ニ千載不朽ニシ
テ復々間然スル所ナカルベシ盆栽臺ノ如
キモ風雨ヲ經テ久シキニ及フモ固ヨリ毀
レ朽ルノ憂ナク製作ノ趣モ頗ル時情ニ適
スルヲ覺フ也鍋釜鏡瓶等ニ至テハ品位ハ

未タ佳ナラスト雖モ火氣ノ達スルト特ニ
速ニシテ價亦廉ナルニ依リ世人甚々之ヲ
便トシテ他方ニ賣輪スルト年々其數少シ
トセス但シ其品位ハ固ヨリ未タ善ナラサ
ルヲ免レスト雖モ其中自ラ上工ナキニ非
スシテ現今上工ト稱スルモノ同町高木喜
道ナルモノ是ナリ明治十年内國勸業博覽
會ニ出品セシ喜道ノ鏡瓶ニ就テ審査官之
ヲ評シテ日館内ニ羅列セル諸縣ノ鏡瓶其
數亦多シト雖モ未タ嘗テ斯ノ如キ湯加減

アルヲ見ス其形狀ハ未タ美ナヲサレモ亦以テ鑄工ノ模範トスルニ足レリト遂ニ博物館附在ノ品ニ充ツルヲ以テ同局ニ納ムルノ命ヲ辱フシ并ニ花紋賞牌ヲ賜レリ抑川口町鞆場十餘棟ノ内増田安次郎増田金太郎兩人ノ有スル所ヲ以テ巨擘トス而ルニ其創業ハ天明年中安次郎父祖ノ方ニ係レリ其鑄法ハ安次郎以來世々其舊ヲ襲ヒシニ明治二年ヨリ創テ生マ型ヲ以テ燒型ニ換ユルノ便ヲ發悟セリ鐵ハ猶舊ニ依リ

陸奥又ハ備中等ノ産ヲ用フト云

一書架及高脚儿ノ評

武藏國入間郡川越町矢部由藏ノ作ル所也書架ハ唐桑ト紫檀トヲ以テシ高脚儿ハ澤テ紫檀ヲ以テ之ヲ製ス皆唐製ニ模擬セリ奇巧ハ舉ケテ稱スル所アルニ非スト雖モ自ラ其風致ヲ有スルヲ唐製ノ及ハサルモノアルニ似タリ亦上工ト言フヘキヲ信ズル也明治十年内國勸業博覽會出品紫檀平案ノ製作最モ佳ナルヲ以テ鳳紋賞牌ヲ賜

ハヘリ

一用簞笥ノ評

通俗糸マサト稱スル最上ノ桐ヲ以テ之ヲ
作り抽屜細大十二ヲ疊ネ中央ニ度閣ヲ構
シ其戸面ハ黒柿ニテ全形ノ壯麗勝テ言フ
ヘカラズ抽屜ノ鈕ハ皆象牙ヲ以テ之ヲ作
リ動物十二支ヲ彫刻セリ是武藏國葛飾郡
小淵村大塚榮吉ノ製スル所ニシテ其精巧
尤極レリト語フヘシ此ノ如キ上工ノ村落
ニ埋ニスルヲ知ルモノ亦博物館ノ設ケ有

ニ由ル也

一一閑張平案ノ評

武藏國葛飾郡東大輪村荻原星谷ノ製スル
所ナリ外面ハ鏡粉漆ヲ以テ之ヲ塗り陰ニ
山水花卉等ヲ蒔繪シ体容甚脆薄ニ似タレ
ル重量ヲ支ヘテ苟モ撓ムヲナク堅實ニシ
テ能ク風致ヲ存セリ亦一種ノ佳品ナリ

一算篤製造物ノ評

武藏國秩父郡大宮郷ヨリ製出セル大小類
品數種アリ其中最モ著シキモノハ方一丈

二尺四方也間ノ竹席也該物タルヤ細割ノ篤ヲ以テ之ヲ織リ中面ハ網代ノ如クニシテ周圍ニハ電紋ヲ織リ之ヲ界スルニ縁畫ヲ以テス全面亦稍小ナル電紋ヲ織リ出ダセリ且其之ヲ用ヒテ久シキニ堪ユルヤ否ヤヲ驗スルニ能ク鞞ニシテ固ヨリ羅氈等ノ比ニアラス假令損スルコトアルモ容易ニ補理スルヲ得ヘクシテ大廈高堂其他ノ敷物ニ供セハ蓋シ輸入品ノ幾分ヲ防クニ足ランカ竹席ノ外提籃烏府文庫等其精ナルモノ

又少シトセス其粗ナルモノニ至テハ帳面衣服等ノ文庫ヨリ其他民間必要ノ類品孰レモ價廉ニシテ得易シ殊ニ旅商ノ行李等或ハ繩ヲ以テ之ヲ緊束シ一時其痕ヲ存スルモ少シク滋潤ヲ與フルハ瞬間其痕ヲ見ヌコレ乃篤ノ奇トスル所也縣内篤ノ工物從前厨用ノ笊箕ニ過ギヌ然ルニ之ヲ閱スレハ其質タルヤ奥信等ノ産物精巧ノ文庫等ニ異ルコトナシ因テ此竹ヲ用ヒ必要ノ器物ヲ製作セハ亦産業ヲ興スノ一端タルヘ

シト確認シ乃長野縣下ヨリ教師宮坂類彌
ナルモノヲ招キ明治十一年七月ヲ以テ其
地ニ遣シ假ニ工場ヲ設ケ其業ヲ有志ノ輩
ヲニ授クルニ競テ之ニ從事スルモノ數十
名アリ今假ニ卒業生ト稱スルモノ七名ア
リ曰ク秩父郡藤谷淵村堀口源次郎大宮郷
塚越由太郎川口房吉岩田村野村寅藏田村
郷市川駒吉皆野村小池半七大宮郷豊田性
道等是ナリ此七名ノ如キハ製スル所ノ品
類ニヨリ或ハ教師ヲシテ手ヲ束子シムル

モノアリトスル也

第六類

一木綿織物ノ評

類品種甚タ多クシテ一々新精ヲ極ムト雖
モ縞類ノ如キニ至ツテハ最モ時好ニ適ス
ルモノアルヲ覺フ也就中足立郡蕨宿内山
佐兵衛製スル所筧管布ト稱スルモノアリ
唧筒ノ水管ニ用ユル所ナリ該功用ハ未タ
全ク實驗ヲ經スト雖必ス其用ニ堪ユルヲ
証スルニ足ル蓋シ今一層精密ヲ加ヘ廣ク

販賣ノ道ヲ求メハ輸入ノ幾分ヲ防クニ足
ランカ

第八類

一 絹織物ノ評

種類少カラスト雖其著シキハ高麗郡廣瀬
村ノ白斜子織秩父郡皆野村花色裏絹入間
郡越生村生絹足立郡蕨宿博多織帶地及黑
八丈全郡中尾村糸織縞及八反織等曾テ糊
ヲ用ヒス純粹ト謂ヘキ也但博多織糸織縞
ノ如キハ管ニ粘ヲ用ヒサルノミナラス其

色アヒ縞ガラ等能ク時好ニ適スルニ似タ
リ此外秩父郡ニタ子縞ノ類數種アリ之ヲ
檢スルニ質面緻密ニシテ深切ヲ盡スト雖
惜ヒカナ未タ山村ノ野陋ヲ免カレス縞ガ
ラモ時好ニ適シ難タク自亦光澤ヲ有セサ
ル也故ニ此ヲ一變シテ人ノ嗜好ニ適スル
ニ至ラシメハ其聲價ヲ揚ル之ヲ掌上ニ指
スカ如クナラン

第十類

一 紙類ノ評

武藏國比企郡小川村大河原會社出品數十種ノ紙類ハ其精粗ニ就テ一々細評ヲ加フルノ奇特アルニ非スト雖他國諸輸出品ノ体裁ヲ整へ製造判及検査印等ヲ證スルカ如キハ營業上頗ル深切ヲ尽スモノト謂ベシ且全會社ヨリ製紙場雛形ヲ出品セリ其場中ノ諸器械ハ勿論製造ノ實況等偶人ヲ以テ其ノ順序巨細ヲ示シ生楮ニ始リ白紙ニ終ルマテ本場ニ就テ親シク之ヲ觀ルカ如シ特ニ出品者ノ注意極ニレリト言フベ

第十三類

一 利器ノ評

諸職工用ユル所ノ利器陳列スルモノ少シトセス就中足立郡浦和宿金物屋鈴木藤助ノ出品二百二十種是ヲ其最モ著シキモノトス作人ハ全郡大間木村鈴木久太郎ナル者ニノ頗ル神ヲ鍛冶ニ得ルモノナリ

第十五類

一 踏轉車雛形ノ評

本車百分ノ一以テ雛形トス其大サ自轉車
ノ稍大ナルモノ、如シ則テ本車ノ壯大ナ
ル亦以テ知ルヘシモシ本車ヲ製作シテ雛
形ノ如ク機關運旋進退自在ナラシメハ當
ニ旅客ノ往來ヲ助クルノミナラス何物ノ
運搬カ亦不便アラシク看者未タ本車ノ完全
ナルヤ否ヤヲ極メスト雖其多年ノ刻苦又
以テ其志ヲ賞スルニ足ル也是武藏國足立
郡三室村僧侶藤林了淵ナルモノ、創メテ
造ル所也了淵ハ所謂器用ノ性質ニシテ未

タ嘗テ工藝學ニ從事シ其理ヲ究ムルモノ
ニアラス蓋シ此人ヲシテ有道ニ就キ以テ
講窮セシメハ奇異ノ機械ヲ發明スルヲ必
ズ多カラシメ

第十六類

一三器ノ評

足立郡浦和宿田口甚左衛門ノ出品ニシテ
穀量水量各種ヲ陳セリ製作ハ同宿飯島吉
兵衛ナルモノニシテ本來指物ノ上工ナリ
人常ニ之ヲ名人ト稱スルニ至レリ是ヲ以

テ田口ノ榭類ハ廣ク用テ世上ニ敷キ西ハ
長崎及中國四國ヨリ東ハ奥羽ノ遠陸ニ及
ホセリ製作若可ナラサルアレハ何ソ斯ノ
如ク之ヲ遠キニ敷クテ得ンヤ吉兵衛ノ
精巧亦以テ信スルニ足ル也尺度權衡ニ至
テハ亦能ク人ノ賞讚ナキニ非スト雖未タ
必スシモ内地ノ優等ヲ保スベカラス

第十七類

一 用水路樋類ノ評

埼玉郡下中條村元垠樋ヲ始メトシ同郡戸

ケ崎村關梓同郡柴山村伏セ越樋足立郡上
瓦葺村掛渡樋同郡大間木村山口村關梓其
外入間郡宗岡村用水新座郡引股地内寛葛
飾郡松伏村關梓同郡行幸堤地景及用水關
樋同郡江戸川水製ノ模型水制ハ洋語ケ埼玉
郡末田須賀兩村入合用惡水路地景等ノ雛
形ヲ列スルハ農務上第一ノ要領ヲ示サシ
ト欲スルナリ右下中條村ヨリ山口村ニ至
ルマテノ水路ヲ見沼代用水ト稱セリ其名
命ノ原由及目今該水路通船ノ景况等ヲ併

セテ茲ニ解説スル左ノ如シ

一昔時武藏國足立郡瓦葺村ト同郡大間木山
口トノ兩村ノ間ニ南北三里餘ノ大沼アリ
之ヲ見沼ト言フ水下數百ヶ村皆此沼水ヲ
挽キ田方ノ灌溉ニ用ユルヲ以テ當時之ヲ
見沼溜井ト言ヘリ然ルニ享保年間距今凡ソ
百五十年
將軍德川吉宗八代將軍紀州
家ヨリ相續日光祖廟ニ詣シ
程ヲ此ニ取り偶見沼ヲ一目シテ曰ク水ヲ
盡シ以テ田ト爲サハ其益必ス少ナカラス
ト當時和歌山藩士井澤彌總兵衛ナルモノ

水理ニ審ナルヲ以テ之ヲ徵シ溜井疏通田
地開墾ノ一ヲ掌ラシム井澤氏奉命從事シ
見沼ヲ埋ムルト雖モ夏ニ灌溉ノ設ケナキ
能ハス故ニ刀祿川ヨリ分水シ以テ見沼用
水ニ代ヘント欲シ乃チ地ノ昂低ヲ測リ上
ニ同國埼玉郡下中條村刀祿川際ヨリ下同
國足立郡川口町埼玉縣下及ヒ千住宿東京府下等荒
川ノ陸ニ至ルマテ凡ソ二十里餘ノ間溝渠
ヲ疏鑿シ關ヲ中條村ニ設ケ以テ刀水ヲ分
取ス是見沼溜井ニ代ユルヲ以テ之ヲ見沼

代用水ト言ヒ該關ヲ中條ノ元以ト言フナ
リ是ヨリ凡ソ六里ヲ經テ星川ト相合ス東
流スルモノ則チ星川ニシテ南流スルモノ
則見沼代用水路ト稱スル大溝也東南二流
各關梓ヲ築キ水ノ有餘不足ニ隨ヒ時ニ之
ヲ開鎖シ以テ灌溉ノ宜シキヲ得サシム其
東ニ在ルモノ之ヲ十六間堰ト云其南ニ在
ルモノ之ヲ八間關ト言フ是ヨリ水路凡ソ壹
里ヲ阻テ埼玉郡柴山村ニ至リ元荒川ト交
又スルヲ以テ該水底ニ大樋ヲ伏セ以テ其

水ヲ通セシム之ヲ柴山ノ伏セ越シ樋ト言
フ又水路凡ソ三里ヲ過キ足立郡瓦葺村ニ
至リ綾瀬川ト交又スルヲ以テ笥樋ヲ該水
上ニ架シ以テ其水ヲ達ス之ヲ瓦葺ノ掛ケ
渡樋ト云フ此笥樋ヲ流過スルヤ直チニ水
路ヲ東西二派ニ分チ東ハ東京府下足立郡
千住宿最寄數十ヶ村水路凡ソ十里ニ及シ西ハ埼
玉縣下同郡川口町最寄數十ヶ村水路凡ソ七里ニ
達セリ此水ノ灌溉スル所ノ如ク大ニシテ
見沼墾田モ全ク其效ヲ竣ヘ万石餘ノ收穫

ヲ増殖セリ其水ノ灌溉ニ要スルハ概予中
春ヨリ晩秋ノ間ニ止リテ其他ハ不用ニ屬
セルヲ以テ晩秋以後ハ上埜玉郡柴山村伏
セ越シ樋際ヨリ以下通船ヲ許シ運輸ニ便
ナラシム蓋シ水源ハ稍大ナレモ末流ニ至
テハ極メテ小ニシテ足立郡瓦葺村以南東
西二派ノ下流ニ至リテ舟筏通漕スルコ
能ハヌ故ニ東ハ足立郡大間木村西ハ同郡
下山口村等ニ於テハ年々冬時ニ至リ水路
ヲ堰キ水ヲ中惡水路ニ下シ東西流水ヲ合

一セシメ以テ通船ニ便ス但中惡水路ト東
西用水路トノ間距離各二百間アリ且用惡
水路ノ最低一丈餘アリ故ニ用水路ヨリ惡
水路ニ至ルノ間東西各二ヶ所宛ノ關棹ヲ
設ケ水ヲシテ高カラシメ以テ舟ヲ昇降ス
此等方法ニ至ルマテ亦伊澤氏ノ考按ニ出
ヅル所トナス此ノ如ク新田ヲ起シテ收穫
ヲ増シ水路ヲ導ヒテ旱害ヲ防キ通船ヲ開
テ運輸ニ便ナラシムル等偏ニ八代將軍ノ
卓見ト伊澤氏ノ知力ニ據ルコト今尙ホ人口

ニ膾炙セリ然リト雖通船ノ如キハ未タ完
全ナラサル所アルヲ以テ明治七年管下ニ
諭シ通船會社ヲ結束セシメ埼玉郡柴山村
伏セ越シ樋ノ上流ニ於テ更ニ通船スル
ヲ許シ該地ニ於テ彼此荷物ヲ交換シ運輸
特ニ其便ヲ得タリ是ニ於テ柴山ヨリ上ミ
ハ埼玉郡行田町及大里郡熊谷驛等千戸以
上商業繁盛ノ地ニ達シ百物交通ノ自由ヲ
得タリ剩ヘ信越上武ノ各邦ヨリ東京ニ運
搬スルモノ近來大半程ヲ此會社ニ藉ル是

ヲ以テ年間輸送スル所凡ハ万駄ニシテ此
賃殆一萬圓ニ至ラントス願フニ利根荒川
ハ或ハ風波ノ難アレモ今此會社ニ依ル
ハ唯ニ其患ヲ免カレサルノミナラズ東京
ニ達スルヲ甚速ニシテ運賃モ亦稍廉ナリ
是其會社運輸ノ逐日盛大ナル所以歟
但埼玉郡下中條村元以樋ノ雛形ハ同村
長谷川忠八ノ手ニ成リ同郡末田須賀兩
村入合用惡水關梓ノ雛形ハ該郡上平野
村篠崎源右衛門ノ手ニ成リ足立郡大間

木山口兩村地内用惡水通船堀關梓雛形ハ通船會社ノ手ニ成リ葛飾郡高須賀外國府間兩村地内陸羽街道行幸堤及門樋ノ雛形ハ同郡東大輪村田口清平ノ手ニ成リ而シ其人其會社ヨリ博物館ニ寄附スル所也其製タルヤ五十分一ニ短造縮作シ樋ニハ則チ堤塘ヲ覆ヒ或ハ沿川ノ柵等ヲ裝補シテ恰モ實際ニ臨ミテ親シク之ヲ見ルカ如クナラシム其注意尤嘉賞スベシ

一 橋梁橋梁形ノ評

茲ニ陳セル橋梁橋梁雛形二個アリ一チ戸田橋ト言ヒ一チ徳江橋ト言フ戸田橋ハ中山道荒川ニ架ス所也該川ノ北岸ハ埼玉縣下武藏國足立郡下戸田村地内ニシテ南岸ハ東京府下同國豐島郡根葉蓮沼兩村入合ノ地ト相對セリ該地從來橋梁ナク渡船ヲ以テ人馬來往ヲナセリ明治四年十二月無號ノ公達ノ趣ヲ奉戴シ長野縣士族正木誓橋錢ヲ收領シ工費消却ノ方法ヲ以明治七年創

テ橋梁ヲ架センコトヲ埼玉縣ニ請願シ官認
 ナ得テ同年十一月土木ヲ興シ翌八年五月
 ニ至リ功全ク竣レリ則テ同月廿六日ヲ以
 開橋ノ日トナス全橋長延七十五間幅三間
 二尺其造營素ヨリ宏壯ナラズ
 德江橋ハ同國葛飾郡沼村地内江戸川ニ
 架ス所也該地モ亦從前渡船ヲ以テ人馬往
 來ヲナセリ同村農德江忠次郎又橋錢ヲ以
 工費ヲ消却スルノ方法ヲ以明治八年創テ
 茲ニ橋ヲ架スルノ允可ヲ得同年五月土木

ヲ興シ同年八月ニ至リ其工ヲ竣ヘリ同月
 七日ヲ以開橋ノ日トナセリ該橋延長八十
 五間アリ其築造粗ナリト雖便益ヲ言フニ
 至リテハ又甚大也此雛形ハ同心社及德江
 忠次郎等ヨリ博物館ニ寄附スル所ナリ夫
 レ水行ヲ疏シ嶮路ヲ開橋梁ヲ架スル等ノ
 如キハ物産蕃盛庶民殷富ノ基本タレハ何
 レノ地モ不便ノ處ハ其便利ヲ開キタキモ
 ノナリ

第三區

第二類

一 紙質髹器ノ評

通俗一閑張ト稱スルモノニシテ其器ハ花瓶茶壺肉地及髹器等也何レモ山水又ハ花卉等ヲ蒔繪シ其風致ヲ育シテ現今中外ノ人情ニ相適シ聊カ間然ハキニ似タリ製造人ハ武藏國幡羅郡玉井村鯨井安平ナル者ニシテ素ヨリ師ニ就テ斯ノ業ヲ傳リシモノニ非ス唯餘暇ヲ以獨樂從事シ遂ニ今日ノ熟練ニ達セリト云明治十年内國勸業博

覽會ニ出品シ鳳紋賞牌ヲ賜リシ者則是ナリ

一 雜嵌細工扁額ノ評

豎二尺横二尺五寸ニ不過其圖タルヤ堆朱登盛盆ニ葡萄子ヲ盛り切ラニ蟋蟀ノ籠ヲ脱シ胡瓜ヲ喰フノ体ヲ彫刻セリ則チ葡萄子ハ紫青班ノ蠟石ニシテ葉ハ樂燒也登盛盆ハ朱ヲ以テ之ヲ塗リ蟋蟀ハ金銀銅ヲ以テシ籠ハ象牙胡瓜ハ鹿角ニ青綠ヲ施セリ各種眞ニ迫マリテ神妙ト言フベキナリ四縁

ハ黒柿ニシテ光琳ノ畫風ニ法リ曉鴉群飛
ト翡翠ノ蘆洲ニ遊フノ圖ヲ密刻セリ固ヨ
リ玩弄物ヲ免カレズト雖モ其精巧比ナキ
ニ至テハ感スルニ足ナリ製造人ハ武藏國
入間郡川越町和氣精三ノ作ルモノ也是亦師
傳アルニアラスシテ自作スル所ト云

一 雜嵌細工文庫ノ評

是モ亦和氣精三ノ製作スル所高尺二寸横
尺六寸縦一尺一寸ニ過キス黒部杉ヲ以テ
之ヲ作り紗綾形及雲紋ヲ刻シ蓋ニ象牙ヲ

以テ扇面ヲ嵌シ黄金青金ヲ以テ之ニ鏤ム
ニ鴉背夕照ノ圖ヲ以テス滿面亦蒔繪ヲ以
テ小扇面ヲ布散シ宛モ笠扇ノ手ニ成ルモ
ノ、如ク自ラ風致ヲ有シテ尤愛スヘキ佳
品ナリ

一 雜嵌細工蒔繪扁額ノ評

扁額二個アリ武藏國入間郡川越町工一ノ
瀬長吉ノ製スル所皆黒部杉洗ヒ出シノ木
地ニシテ一ツハ圓形其徑リ一尺一寸蒔繪
ニテ野生ノ茨荊ヲ布置シ其枝ニ象牙ヲ以

テ密刻シタル雀一羽ヲ嵌シ一ツハ扇形豎
九寸横一尺三寸蒔繪ヲ以水仙花ト菅ノ破
笠トヲ畫キ之ニ添ユルニ象牙ヲ以テ飛雀
一羽ヲ彫刻セリ其精微神妙恰モ眞生物ヲ
視ルカ如シ

右紙質鬆器ヲ始メ雜嵌諸品皆玩弄ニ過キス
ト雖其製作ノ巧ニシテ精微ニ入ルニ至テハ
尤モ嘉賞スルニ堪タリ蓋シ海外博覽會ニ出
品シ巧ヲ衆中ニ校フルモ亦精巧ノ一部ヲ占
ムベキヲ想像ス

第四區

第十六類

一製茶器械雛形ノ評

狭山會社ノ出品ニシテ本物五十分一ノ雛
形也再製綠茶製造ノ諸器械ヨリ海外輸出
荷造ニ至ルマテ順序ヲ以テ第列シ常遊團
扇之細ト雖トモ釜數ニ應シ一モ遺スナシ
會社ノ注意尤嘉賞スヘシ

一養蠶器械雛形ノ評

武藏國兒玉郡兒玉町榮産會社ノ出品ニシ

テ養蠶ニ關スル細大一切ノ諸器械都テ五十分一ニ短縮製造シ初眠ヨリ四眠ニ至ルマテ亦一モ遺スナシ簇ノ如キハ右五十分一ノ籠ニ實際成繭ナサシメ且該社ノ飼養ニ用フル桑葉ヲ冊中ニ捕ミ子細ニ其能效ヲ書シ且ツ本社ノ規則書一部ヲ添ヘタル等是全ク彼此長短取舍スルヲ冀フノ懇切ニ出タルハ誠ニ間然スル所ナシ觀客感セサランヤ

第五區

第三類

一 農産物ノ評

種類甚々多シト雖モ中ニ就テ最モ著シキモノ養蕃社武藏國足立郡浦和宿外二村ノ出品穀類數十種是ナリ每品一合許リ玻璃瓶ニ納レ詳カニ之ヲ閱スルヲ得セシメ且其播種收穫ノ時期ヨリ各品ノ肥料何如各品一反ノ收穫多寡等詳細ニ記シ並セテ之ヲ陳ネタルハ注意極レリト言フベシ之ニ亞クモノハ第七區第九區等ノ區務所ヨリ區内優等ノ穀類

數種ヲ蒐集シ豎尺五寸横五寸許ノ箱ヲ作
リ其中ヲ區畫シ蝶番ヒヲ以テ屏風ノ如ク
シ之ヲ并立シテ看者ト進退トニ便ナラシ
ム是等管ニ其注意ヲ稱スルノミナラス畢
竟物産蕃殖ヲ望ムノ素意ニ出ツル者ト想
像ス

第五區

第七類

一生糸ノ評

類品尠シトセス就中武藏國高麗郡上廣瀬

村暢業社製糸場出品機械製ノ捻シ造リナ
ルモノアリ之ヲ尤優等トスルニ似タリ此
糸管ニ絶佳ナルノミナラス每一繰原質ト
試験糸トヲ添テ觀客ノ仔細ニ之ヲ視之ヲ
檢スルニ便ナラシム其注意見ルヘキアリ
此暢業社製糸場ハ明治十年五月土木ヲ起
シ十一月ニ至リ功全ク竣レリ該場ニ具有
セル器械ハ所謂六十人繰ナルモノニシテ
内地各所ノ器械ヲ折衷シ其所長ヲ採テ作
レルモノ也其尤モ好ミスヘキハ虚飾ヲ去

テ實用ヲ專ラニセシカ故ニ汽罐及汽管等
ヲ除クノ外渾テ木製ニシテ頗フル質素ヲ
示セリ然レモ實用專切ナルカ故ニ汽罐ノ
如キハ唐銅製ニシテ全國屈指ノ良罐ト言
ヘリ器械ノ精粗ハ暫ク閑キ茲ニ陳セル製
糸今此館内ニ於テ上等ニ位スルハ何ソ喋
々ヲ贅センヤ嘗テ聞ク廣瀬ノ糸ハ上州富
岡磐城二本松ノ製糸ニ讓ラスト果ソ然リ
明治十一年五月横濱ニ於テ伊國人ニ賣與
セシ所ハ百斤^二價目^七ノ價格洋銀六百九十枚

ニ當リテ富岡二本松ノ上ニ駕スルコトヲ得
タリ茲ニ因テ之ヲ惟ヘハ廣瀬ノ糸ハ蓋シ
海内第一等ノ上品ト稱シテ可ナラン斯ノ
如キハ大ニ器械ノ妙ニ關スト雖又場長下
村泰作副長清水宗等平素ノ丹誠ニ成リ立
ツヲ覺フナリ却說廣瀬ニ亞クモノ大里郡
熊谷宿森伊左衛門三十人練器械製造糸
高麗郡飯能村大河原章平八人練器械製造
造糸等也又座練製ニシテ右等ノ機會製ニ
讓ラサルモノ秩父郡皆野村飯野要兵衛全

村淺見嘉平兒玉郡兒玉町坂本金十郎足立
郡桶川宿川邊辨次郎下總國葛飾郡椿村横
田シヅ等ノ提糸造リナリ又此等ノ糸ニ交
相類スルモノ兒玉郡本庄驛木村カク外三
十五名女兒ノ製セルモノ全所生糸改所ノ
出品也此三十六名ハ十七歳ヲ年長トシ十
二歳ヲ年少トス明治十一年八月
聖駕北巡ニ際シ勸業掛諸井泉衛及全驛生糸
改所役員等注意ヲ以テ本庄驛内ニ於テ該
少女ヲシテ平素ノ体裁ニ具シ以テ此糸ヲ

製カシム茲ニ

鳳章ヲ駐メテ親シク

天覽ヲ賜ヘリ此糸未必シモ内地ノ優等ヲ保
スヘカラスト雖之ヲ上州前橋座繰組ノ製
糸ニ比スレハ又必シモ上等ニ位スルヲ覺
フ也十二三歳ノ少女ニシテ既ニ斯ノ如シ
大政府ノ曩ニ生糸製造取締規則ヲ廢セラ
ル、モ必竟此徒ノ如キ上工ノ各地ニ輩出
スル所以歟

第五區

第八類

一 農具ノ評

種類尤多シ其著シキハ武藏國足立郡向山村吉田萬助ノ製造農具一切ノ打物也其製タルヤ一々其土地ニ應シ其形ヲ異ニシ某地ハ甲某地ハ乙ト每類四五品乃至六七品ヲ列テ其用ユル所ノ地名ヲ表記シ深ク其意ヲ注スルハ能ク自家ノ業ヲ勵ムト謂フベシ

右ノ外各品ノ夥キ枚舉スルニ遑アラス何況ヤ

一々評説ヲ加フルニ勝ヘシヤ故ニ其著シキモノ若干ニ就テ聊カ其概畧ヲ記スルノミ亦已ム可能ワサル也

明治十一年九月 埼玉縣勸業博物館錄事

